

2025 年 6 月 15 日（日）主日朝礼拝説教

『イエスの名によって』 井上隆晶牧師
エゼキエル書 37 章 1～10 節、使徒言行録 3 章 1～10 節

①【持っているものをあげよう】

ペトロとヨハネは午後三時の祈りの時に神殿に上って行きました。すると生まれながら足の不自由な男の人が運ばれてきました。彼は、神殿に来る人から施しをもらうために、毎日「美しい門」と呼ばれる神殿の門のそばに置いてもらっていたのです。彼はペトロとヨハネにも施しを求めました。するとペトロとヨハネは彼をじっと見て、「**私たちを見なさい**」と言いました。彼が何か貰えるのかと思って二人を見つめると、ペトロは「**わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい**」（使徒 3：6）と言って、彼の右の手を取って立ち上がらせると、その人の足がしっかりして、躍り上がって立ち、歩き出しました。そして周りを歩き回り、躍ったりして神を賛美し、二人と共に神殿の境内に入って行きました。

●先日、教区の人事部委員会で牧師になるための検定試験を受けられる方の面接を行いました。その方は中国人の方でしたが、日本に来てから洗礼を受けクリスチャンになられました。その方が言うのです。「皆さん、日本人とは何ですか？パスポートを取り上げられ、すべての自分を証明できるものを取り上げられたら、どうやって日本人だと証明しますか？日本語を話すから日本人ですか？私も日本語を話します？」それを聞いてもっともだと思いました。

では、皆さんに聞きます。あなたはクリスチャンですか？どうやってそれを証明しますか？礼拝に来ているからですか？カルト宗教の人でも来る事が出来ます。イエス様を信じているからですか？悪霊もおののくほど信じています。彼らとあなたの決定的な違いは何ですか？その答えがここに書いてあります。ペトロは「**わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。**」と言いました。ペトロが持っていたものとは何でしょう。彼はお金も地位も学歴も持っていませんでした。しかし彼はキリストと聖霊を持っていました。私たちも同じです。これがクリスチャンである証明です。もしキリストが私から去れば、私は信仰を失い、権威を失い、力を失い、命を失い、塩気を失った塩のように何の役にも立たない者になります。聖霊が去れば、私は無知になり、手を置くことも出来ず、癒せず、語ることもできなくなります。

「見よ、あなたから遠ざかる者は滅びる。御もとから迷い去る者をあなたは断たれる。」（詩編 73：27）とあります。この言葉を私は畏れます。だからこそ何があってもキリストから離れません。私を高く上げてくださるのはキリストだけです。

そのキリストが使徒たちに「あらゆる悪霊に打ち勝ち、病気をいやす力と権能をお授けになった。」(ルカ 9 : 1) のです。これはキリストの体とされたすべてのクリスチャンが持っている力です。私たちは持っていないのではなく、持っています。私たちはその賜物を開花させなければなりません。パウロは弟子のテモテにこう言いました。「私が手を置いたことによってあなたに与えられている神の賜物を、再び燃え立たせるように勧めます。神はおくびょうの霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊を私たちにくださったのです。」(Ⅱテモテ 1 : 6~7) 再びという事は、前は燃えていたのに今は、くすぶっているということです。でもその賜物は消えることなくあなたの中にあるので、もう一度燃え立たせよと言うのです。テモテはおくびょうな性格の人だったようです。また民数記にはこんな記事があります。「主は雲のうちにあって降り、…モーセに授けられている霊の一部を取って、七十人の長老にも授けられた。」(民数記 11 : 25) ここに、指導者が聖霊を受けていることの重要性が書かれています。聖霊を受けている指導者は、その賜物の一部を自分の民に分け与えることが出来るからです。私は皆さんに語る時、私の霊の一部を与えています。指導者が信仰に燃えれば、民も信仰に燃えるからです。

●19 世紀のロシアの聖人、サーロフの聖セラフィムという人がいました。彼は特別な教育を受けた人ではありませんでしたが、幼い時から信仰が篤く、15 年間深い森の中で隠遁生活を送って修行し、聖霊の賜物を授かりました。1000 日間大きな石の上で昼も夜も祈り続け、その後、人々に大きな慰めを与え、奇跡を行い、聖霊による救いの喜びを伝えた聖人でした。彼は人に出会うと誰にでも「私の喜びよ、私の宝よ」と言って挨拶し、「平和な心を獲得しなさい。そうしたらあなたの周りにいる数千人が救われます」と教えました。この「平和な心」は聖霊が結ぶ実(品性)であるとし、聖霊を獲得することが人生の目的だと言っています。

これは良く解りますよね。平和な心を持つ人は、周りの人を救いますが、不機嫌な人は周りの人に不機嫌をうつします。まず自分自身の信仰を吟味しなければなりません。あなたはキリストと聖霊を持っていますか？

②【イエス・キリストの名によって歩くとは】

足の不自由な人が癒されたのを見て、大勢の人たちが集まってきました。そこでペトロはその人たちに、私たちが自分の力や信仰で、この人を歩かせたのではなく、「あなたがたの見て知っているこの人を、イエスの名が強くしました。それはその名を信じる信仰によるものです。イエスによる信仰が、あなたがた一同の前でこの人を完全に癒したのです。」(使徒 3 : 16) といいました。イエス様への信仰が大事なのです。「イエス・キリストの名によって立ち、歩く」とはどういう意味でしょう。生まれた時から歩くことが出来ない彼は、ずっと人に頼って生きて来ました。そのような生き方をやめ、イエス・キリストに頼って生き始めたということです。方向転換をしたのです。イエス様が私を生かして下さる、イエス様

が私を治してくださる、イエス様が立ち上がらせ歩かせてくださるという生き方
に変わったということです。イエス様の名前自体に「魔法の様な力」があるの
ではありません。いくら名前を繰り返し呼んでも、イエス様自身を信じていなければ
奇跡は起きません。名前は本体を現わします。そしてキリストの言葉も、その
本体を現わします。キリストを信じるとは、具体的にはキリストの言葉に従うと
いう事です。「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。…私を愛さない者は、
わたしの言葉を守らない。」(ヨハネ 14 : 23、24)と言われたからです。ここでも
ペトロの「立ち上がり、歩きなさい」という言葉に「いいえ、出来ません、無理
です」と答えるのではなく、彼は実行したのです。すると立てたのです。聞いて
も行わない人が多いのです。それは「自分に言われた言葉として聞いていない」
か、「良い言葉」として軽く聞いているからです。だから奇跡が起きないのです。
渡辺和子シスターがうつ病になって入院した時、「私が行って癒してあげよう」と
いうイエス様の言葉が自分に言われたように感じた時から、うつが楽になって行
ったと書いていました。

●先日、大阪基督教生命堂という中国人の教会に説教に行ってきました。本通り
にあるみらい銀行の角を曲がったところにあります。数年前まで天神橋筋商店街
の中にある小さな教会でしたが、それがみるみるうちに大きくなってここに移転
しました。立派な礼拝堂で、一日に何度も礼拝があります。朝の祈りの後、皆で
朝食をいただいたのですが、その時一人の信者さんから小さな「み言葉おみくじ」
をもらいました。東京のある修道院のシスターが、聖書の言葉を多くの人に知っ
てもらいたいと思って作ったものです。巻物のようになっていて、何が当たるか
分かりません。私がもらった巻物を開くと「神にできないことは、何一つない。」
(ルカ 1 : 37)と書かれてありました。今の私の心を見抜いているようで、ドキ
ッとしました。み言葉を自分に言われているように感じたのです。今、私たちは
新しい教会建築をしようとしています。本当に出来るのだろうか、無理なのでは
ないか、自分の身の丈に合ったもので妥協した方が良いのではないかと日々心が
揺り動きます。27坪の土地なのだから、この現実に合わせてようというのでは、何
か違うのではないかと思ったのです。私たちにはこれだけのものが必要なのです。
主よ、どうかお与えください、でなければ信仰ではないのではないか、と思っ
たのです。そんな私に迫って来る言葉でした。その信者さんがいうには、不思議と
その人にぴったりの言葉が当たるといいます。私の隣にいた、牧師さんには「一
粒の種は地に落ちて死ななければ一粒のままである」という言葉でした。それを
貰った彼は「私は死ねという事か!」と言っていました。とにかく、「神にでき
ないことは、何一つない。」を主が私に言われた言葉として私は聞いたのです。

神の言葉は、すべて自分に対して言われています。それを聞くだけでなく、実行
しましょう。その時、奇跡が現れ、主イエスが共にいてくださることが分かるの
です。